

ハンドボール

興南 35 1520 179 26 コザ	興南 35 1520 179 26 コザ
▽3位決定戦	▽3位決定戦
那覇国 21 129 128 20 浦添商	那覇国 21 129 128 20 浦添商
▽決勝	▽決勝
浦添 26 1214 145 19 コザ	浦添 26 1214 145 19 コザ

堅守 コザ猛攻かわす

スポット

9月の県選手権と同一カードとなった女子決勝は浦添がコザを再び下して10年ぶりに頂点に立った。

6連覇中の那覇西が初戦で敗れ、混戦となる中、堅実な守備で勝ち上がりつづけた浦添。安里(こう)主将は「立ち上がりを大事に」とメンバーに序盤の集中力を求めた。主将の狙い通りに、堅守が光り、前半14分までわずかに1失点。特にセンターの金城ひかりは体を張った守りで、コザの突進を阻止した。

攻撃では翁長鈴が起点となり、右の宮城美季、左の大城明香里へ巧みなボール回しで得点を演出。時には、自ら中央突破を図るなど、多彩な攻撃で、徐々に点差を広げた。コザを5点に抑え、9点リードで迎えた後半は、翁長が金城のポストプレーを多用し、コザ守備陣を翻弄(ほん)したと喜んだ。

集中 浦添 10年ぶりV



女子決勝 浦添—コザ 前半26分から3連続得点を挙げた浦添の宮城美季—東風平運動公園体育館 (古謝克公撮影)

ろう。終盤、追い上げを図るコザの猛攻は、しつこい守備でしのいだ。チーム最多の6得点を挙げた金城は「ポストプレーは得意のバターン。うまく決まると喜んだ。」

新チーム結成から2大会連続優勝。安里主将は「優勝はうれしいが、12月の九州選抜県予選で優勝しなければ意味がない。必死になって代表を勝ち取りたい」と目を輝かせた。(花城克俊)

「気持ち負けた」コザ攻め手欠く
○：浦添の気迫あふれる守備の前に攻め手を欠いたコザ。中村亜湖主将は「前に出てくるディフェンスに

足が止まってしまった。気持ちで負けていた」とうなだれた。U-18日本代表の登川愛がけがで出場できなかった影響も大きかった。

5月から元日本代表の金城晶子氏がコーチに就任。前半は口を出さず、我慢して試合を見ていたが「何をやるか」としているのかわからなかったと後半は選手に細かい指示を出した。リーダー不在。引張る選手が出てきてほしい」と発奮を促した。

男子興南7連覇

受け身の守備 王者反省

全国総体優勝メンバー7人を擁する興南がコザを退け、7連覇を達成した。序盤から下地利輝主将が起点となる素早いパスワークでコザを圧倒。伊舎堂博武、與那嶺英路のサウスブローコンビが次々にネットを揺らした。

総体優勝メンバーの一人GK宮國央芽も、好セーブを連発した。黒島宣昭監督も「あれで相手に流れを渡さなかったと褒めた。」

前半のリードを保ち、後半コザの追撃をかわして27度目の頂点に立ったが、試合後のメンバーに笑顔はなかった。下地主将は「後半のような受け身の守備では、全国で通用しない」と反省しきり。「チーム一丸となって全国選抜優勝を目指し」と王者に油断はない。



男子決勝 興南—コザ 後半、高い打点からシュートを放つ興南の伊舎堂博武